

データ編(非財務データ)

非財務指標

	単位	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
従業員^{※1}						
従業員数(単体)	名	953	984	1,012	1,039	1074
男性	名	796	814	829	844	865
女性	名	157	170	183	194	209
外国人	名	0	0	0	1	4
平均年齢	歳	43	43.1	43.5	43.7	43.7
男性	歳	43.4	43.4	43.9	44.2	44.4
女性	歳	42.1	41.4	41.5	41.5	40.9
勤続年数	年	17.4	17.0	17.1	17.2	16.8
男性	年	17.8	17.5	17.8	17.8	17.8
女性	年	15.6	14.5	14.0	13.6	13.1
部長職相当管理職人数	名	61	67	68	75	78
男性	名	61	66	66	72	75
女性	名	0	1	2	3	3
課長職相当管理職人数	名	176	184	187	186	190
男性	名	171	175	176	174	177
女性	名	5	9	11	12	13
女性管理職比率	%	2.1	4.0	5.0	5.7	6.0
新卒採用者数	名	13	35	20	19	24
男性	名	11	26	13	12	14
女性	名	2	9	7	7	10
離職者数 ^{※2}	名	10	16	18	17	20
新卒3年内離職率 ^{※3}	%	0	5.7	5.0	-	-
障がい者雇用率 ^{※4}	%	2.38	2.06	2.01	2.18	2.40
育児短時間勤務制度利用者数	名	21	23	20	23	25
育児休業制度利用者数	名	7	6	14	10	12
育児休業復職率	%	100	100	80	91	100
看護休暇取得者数 ^{※5}	名	2	4	6	14	1
介護休業取得者数	名	1	1	1	0	0
有給休暇取得率	%	64.9	63.0	69.7	79.1	63.7
時間外労働時間(1人当たり)	時間/月	16.3	16.8	17.5	17.9	16.9
年間総労働時間	時間	1,955.5	1,969.2	1,961.0	1,945.0	1944.0
労働災害件数(休業4日以上)	件	1	0	1	0	0
休業災害度数率 ^{※6}	度数率	0.593	0.000	0.593	0	0
休業災害強度率 ^{※7}	強度率	0.010	0.000	0.023	0	0

※1: 有価証券報告書 従業員数(単体)と算出方法が異なります。 ※2: 定年退職者を除く。 ※3: 該当年度に入社した新卒採用従業員の3年内離職率を記載しています。
 ※4: 各年3月末時点。 ※5: 子の看護休暇取得者数。 ※6: 1日以上(休業)の労働災害による死傷者数で、災害の発生頻度を示します。
 ※7: 1,000延労働時間当たりの休業労働損失日数で、災害の重さの程度を示します。

	単位	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
環境^{※8}						
原料使用量	千t	1,678	1,739	1,680	1,694	1,560
購入電力	万kWh	8,543	6,521	6,406	6,741	6,230
温室効果ガス排出量^{※9}						
Scope 1	千t-CO ₂	104	111	111	117	111
Scope 2	千t-CO ₂	60	50	51	52	36
Scope 3 ^{※10}	千t-CO ₂	-	-	3,542	3,453	3,301
CO ₂ 排出原単位	t-CO ₂ /精製油t	0.26	0.24	0.25	0.26	0.26
取水量	千m ³	12,646	12,842	13,014	12,721	11,907
排水量	千m ³	11,126	11,279	11,621	11,310	10,698
廃棄物発生量	千t	39	43	39	41	38
再資源化率	%	99.99	99.99	99.98	99.98	99.99
特定化学物質排出量・移動量	t	11	8	7	9	6
社会貢献						
社会貢献活動支出額	百万円	25	27	27	31	31

※8: 環境関連のデータ集計範囲は2018年度まで自社全生産拠点、2019年度からJ-オイルミルズグループ(国内連結子会社)です。 ※9: 一部データの修正を実施しました
 ※10: 集計範囲は2019年度まで油脂事業のみ、2020年度はJ-オイルミルズグループ(国内連結子会社)です。

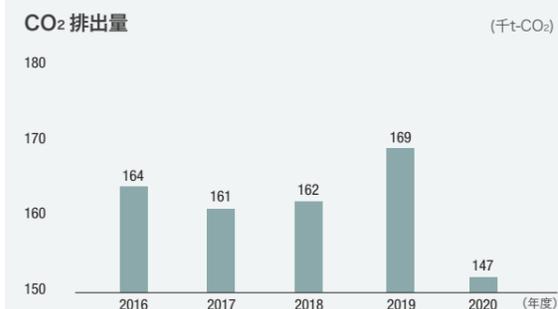
主な非財務指標



2020年度は在宅勤務中心の勤務体系も影響し有給休暇取得率は減少しました。



年間総労働時間は2018年度より段階的に減少しています。今後も継続的な取り組みを進めていきます。



2020年度はコロナ禍による生産量減少と、一部工場でのバイオマス燃料使用比率の向上により大幅にCO₂排出量が減少しています。今後はScope3も含め、より一層の削減に取り組みます。
 ※本グラフはScope1,2のデータを使用しています。



当社では引き続き水資源の持続的な利用を目指し、継続的な取り組みを続けています。また2020年度からはWEBサイトで詳細な数値の開示にも取り組んでいます。